

◆ 3工法の概要 ◆

ミラクルボール緑化工法(ミラクルソル工法)

ミラクルソルは、空き瓶などのガラス廃材を焼成してつくるリサイクル製品で、無数の微細な気孔を有し、軽量で強固なことが特長。製造条件によって、比重や吸水・非吸水性能を調節できる。

ミラクルボール緑化工法では、吸水性と保水性に優れたミラクルボール(多孔質連続間隙のミラクルソル)を生育基盤材に混合する。これにより植物の初期生育がよくなり早期に斜面緑化が形成され、降雨による地山と厚層基盤材の浸食防止、凍土による崩落防止の効果が発揮される。

ジオファイバー工法

同工法は、砂と糸を使った連続繊維補強土工、地山補強土工、植生工の三つを組み合わせたもの。セメントを使用しないことから二酸化炭素の排出量を削減し、法面の樹林化もスムーズにできるなどの特性を持つ。これまでに全国で約2800件の施工実績を有し、香港や韓国など海外でも実績を積み重ねている。

ニューレスプ工法

同工法はモルタル吹付法面の補修および補強を行う技術。既設の吹付法面を剥ぎ取らず(はつり取らず)に施工できるのが特徴で、既設法面の上からポリプロピレン繊維に特殊加工を施した「BC-ファイバー」を混ぜ込んだモルタルを吹き付ける。法面の剥ぎ取りが不要となるため、産業廃棄物の発生抑制、安全性の向上、工期短縮が期待できる。

現場見学会のようす



唐津で工法研修会を開催

ミラクルソルなど3協会



挨拶する原裕理事長

ミラクルソル協会(原裕理事長)など3協会は18日、唐津市で第21回「ミラクルソル工法・ジオファイバー工法・ニューレスプ工法」技術研修会および現場見学会を開催した。官公庁、建設コンサルタント会社、建設会社などから約90人が参加し、工法の特徴や施工事例などに関する説明を受けた。主催はミラクルソル協会のほか、佐賀県ジオファイバー協会(原裕会長)、佐賀県ニューレスプ協会(同)。



講演を行う日特建設㈱九州支店の鶴留亘一技術部長

冒頭、原理事長は「三つの工法は環境にやさしい技術として、全国で工法の普及に取り組んでいる。本日はニューレスプ工法の特徴や施工事例、ミラクルソルを使った工法などを紹介し、その後、唐津赤十字病院の造成現場でミラクルボール緑化工法の施工状況を見学する。皆さんの業務の一助にしていたたきたい」と挨拶した。

技術研修会では日特建設㈱九州支店の鶴留亘一技術部長が「吹付法面診断・補修補強の手引き」について説明し、佐賀県内でのニューレスプ工法の施工事例を紹介した。続いて、原理事長(工学博士)がミラクルソルの開発背景や目的、土木

や緑化など用途に応じた28工法について解説した上で「これからのものづくりは新しい材料や製品の開発が重要となる。工法を選ぶ場合にも、二酸化炭素の削減、廃資源の再利用など環境負荷の低減に関する項目を取り入れ、環境に配慮した工法を選んでいくことが大切」と説明した。

現場見学会は、唐津赤十字病院が移転新築される地域医療センターエリア造成事業用地造成工事

(唐津市町田など)で実施。日本建設技術㈱建設&コンサルタンツ事業部の下平正徳副部長がミラクルソルを使ったミラクルボール緑化工法の施工内容や進捗状況などについて説明した。同現場では約5000平方メートルの法面で同工法を施工、7月頃の完成を目標に整備を進めている。